

## 序 章

駒沢女子大学は、平成5年4月1日、日本文化学科と国際文化学科との2学科から成る人文学部として開学し、平成12年4月1日には人間関係学科、平成14年4月1日には、空間造形学科と映像コミュニケーション学科の2学科を増設し、人文学部は現在5学科によって構成されている。また平成21年4月1日には人間健康学部健康栄養学科が新設された。

本学の大学院は平成14年4月1日に人文科学研究科仏教文化専攻修士課程が設置され、翌平成15年4月1日には同研究科に臨床心理学専攻修士課程が開設され、現在二つの専攻から構成されている。

また本学に付属する研究所としては、平成10年度に日本文化研究所が設置されている。したがって駒沢女子大学は現在開学から19年目を迎え、2学部6学科・1研究科2専攻・1研究所によって構成されている。

本学は平成9年度に自己点検・評価報告書を作成し、大学基準協会の加盟判定審査を受け、平成10年に大学基準協会の会員校として認められた。その後、学校教育法の改正に伴う認証評価制度が施行されたのを受け、平成16年度に自己点検評価報告書を作成し、平成17年度新たな認証評価制度の施行の下、大学基準協会の相互評価を受けた。そこで幾多の助言を受けながら、学内の諸方面の改革を行い、その中間報告書を平成21年に大学基準協会に提出した。

その後本学は前回の認証評価結果をふまえつつ、様々な改善の取り組みを全学的に推進してきた。その一例を挙げるならば、本学の教育の特色である「自主自立を促すための面倒見ある教育」を具現化した独自の教育プログラムを展開し、教科書自前化、授業録画システム（授業復習データベース）などの取り組みを充実させてきた。本学ではこれを平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）に「教育方法の工夫改善を主とする取組」として申請し採択されている。

また「学修支援センター」を平成23年度から開設し、入学前の課題学習、各学科の教養知識のレベル把握とその向上へ向けた補習授業、進路を想定した就職試験問題の指導等を実施している。

今回の点検・評価報告書を作成する作業はこうした本学が取り組んできた教育改善の方策をはじめ、日々実施している教育内容や学修支援・学生支援体制等の様々な課題を細部にわたって検証し、浮き彫りにすることによって、新たな方向性を見出していく重要な手続きとなるはずである。こうした検証の過程の中で、教職員が本学を取り囲む厳しい現実を直視し、それぞれの立場からの教育改善・組織改革等の取り組みを進展させることができる時、認証評価を受けることの真の目的が成し遂げられたことになるであろう。

なお、本学の教育研究組織の中で人間健康学部については完成年度を迎えておらず、点検・評価の項目によっては言及できないことを付記する。